

矢沢地域情報誌

やまぼろひ

No. 39

2022年3月1日

mail : yashinkai025@gmail.com

発行 / 矢沢地域振興会 矢沢振興センター内 収 29 - 5480

矢沢振興センターリニューアル 長寿命化対応による改修工事完了

現在の矢沢振興センターは、昭和51年4月に新築開館、平成3年3月には大広間の増築工事が行われ現在に至っております。この間、東日本大震災後に耐震調査が行われ、耐震性の担保は確保されていま

す。しかし築45年が経過し、全体的に老朽化が進み利用者の皆様にはご不便をおかけしてまいりました。その中で、令和2年度に改修に向けた設計調査が行われ予算化、今回の長寿命化対応の改修工事となっています。地域としては本来新築が望ましいのですが、近年の国・自治体の財政難から改修工事となっています。工事期間中は利用者の方はもちろん近隣にお住まいの方



外壁を全面塗装した矢沢振興センター

にも大変ご迷惑をおかけしてまいりました。ご協力に感謝いたします。改修された矢沢振興センターを様々な活動にご利用いただければ幸いです。



自動化されきれいになったトイレ



床を補修しピカピカの講堂

矢沢振興センター工事概要

- ・発注者…花巻市
- ・受注業者…有限会社鈴木木工
- ・工事業者…株式会社理水工業 有限会社栄電気
- ・総工費…4,675万円
- ・工事期間…9月15日～12月23日

主な工事内容

- ・外壁全面塗装
- ・屋上の防水対策
- ・トイレの改修・下水道改修
- ・廊下、茶室の水道改修
- ・厨房のガス工事
- ・厨房の瞬間湯沸かし器更新
- ・照明灯のLED化(全室)
- ・分電盤の改修
- ・二階和室の天井張替
- ・講堂の床補修 等

わがスポーツ少年団

矢沢武士道館

矢沢武士道館は、2015年4月に発足した柔道スポーツ少年団です。幼児、小学生、中学生、高校生、一般が共に活動しています。現在は、小・中学生で26名(男子14名、女子12名)在籍しています。公認柔道指導者も多数在籍しており、子ども達と一緒に矢沢中学校内武士道館で、毎週月曜・水曜の18時～20時まで活動しております。活動方針としては、「礼儀正しく、元気よく、なんでも一生懸命に！」を基本としています。



柔道は、本人が努力した分出来なかった事ができる様になったり、強くなった、上手になったり、成果が見える競技です。小学生は毎年、市内の大会や県大会レベルの大会で上位入賞し、中学生も県中総体や県新人戦で上位入賞しております。



矢沢武士道館では、随時団員を募集しております。初心者はもちろん、久々に柔道しようかなと思った経験者の方もお気軽にお越しください。フェイスブックで日頃の練習風景や大会の結果報告イベントなどの活動報告をしています。『矢沢武士道館』で検索してみてください。

矢沢武士道館
コーチ 斎藤 貴也

新春を呼ぶ 胡四王神楽



今年こそ安寧な年でありますよう！



胡四王神楽の権現さま

矢沢地区では、毎年胡四王神楽の権現さまが新春松の内に家々を回り、厄除けお祓いを行っています。今年も胡四王神楽では1月3日から5日にかけて権現さまの門付けを行い、家内安全、五穀豊穡と今年一年の安寧を願いました。

とりわけ今年は新型コロナウイルスがオミクロン株への変異により再拡大する過程にあり、コロナの収束を願って行われました。

また、子どもさんがいるご家庭では、権現さまに頭を噛んでもらい、健やかな成長、健康、運動・学業成就などをお願いしました。



胡四王神楽権現舞の新春の門付け

未来の 「太平洋の懸け橋」!! キッズわくわくスクール

矢沢地域振興会(中島健次会長)の児童支援事業の一環として、冬休みを利用した「キッズわくわくスクール」が1月12日矢沢小学校で開催されました。

「キッズわくわくスクール」は、次世代を担う子ども達が生きた英語をゲーム感覚で学ぶとともに、異文化体験や交流活動を通して、児童の健全育成を図るこ



冬休みに楽しく英語を学ぼう！

とを目的としています。

新型コロナウイルス(オミクロン株)が開始した時期でしたので、矢沢児童クラブに通う小学3〜6年生を対象とし、17名の参加者がありました。

講師は、市教委外国語指導助手(ALT)で、米国ユタ州出身のスーザン・タート先生です。スーザン先生は、昨年から矢沢小学校で英語を教えており、子ども達は始まる前から和気あいあいとしていました。

最初は体の部位の名前を覚える手遊び歌「ヘッド・ショルダーズ・ニーズ&トーズ」を徐々にテンポアップしながら歌い英単語を楽しく学びました。

また、言葉のビンゴゲームなどを通して、英語によるコミュニケーションを体験し、お互いのコミュニケーションを深めつ



スーザン先生と英語で会話

つ外国語力アップに努めました。副校長先生のお計らいで使用することができたイングリッシュルームは、終始子ども達の熱気に包まれ、そこには、コロナ禍も寒さも吹き飛ばす「元氣な矢沢っ子」の笑顔がありました。

最後には、子ども達が英語でお礼の挨拶をするサプライズもあり、スーザン先生をビックリさせていました。校長先生も見に来てくださり、子ども達に出となったことでしょう。



一对一の真剣勝負 どうだ！

矢沢地区区長会事務局長 小原敏彦さんを偲ぶ

昨年8月頃にお会いした時、体調が思わしくないと、次期区長は交代しますからと、言われておりましたが、こんなに体調が悪化していたとは思っていませんでした。

1月3日の新聞の慶弔欄に小原敏彦さんのお名前が記載されているのを見て驚いた次第です。

敏彦さんにおかれましては、矢沢行政区長を三期(6年)お務めになられ、矢沢地区区長会の事務局長も務めていただきました。区長会の窓口担当として大きく貢献していただきました。

また、矢沢地域振興会では理事として活躍され、これからも矢沢地域づくりのリーダーの一人として、大いに期待される人材でありました。誠に残念でなりません。

ここに謹んでお悔やみを申し上げます。どうか安らかに眠りください。

矢沢地区区長会

会長 伊藤 昇

小学校コーナー

地域の皆様に支えられて

矢沢小学校では、子ども達の学習をその道の専門家やプロの方々にお出でいただき、子ども達をサポートして頂いております。

コロナ禍ではありませんが、感染予防対策を万全に行いながら、今年度これまで、運動会での祝いの舞指導に田口守男さん、3年図工の釘打ち学習に小原久一さん、4年図工工作でのこぎり学習に伊藤輝美さん、5年理科の天気学習に古川洋一さん、5・6年家庭のミシン学習に西川富美子さんと照井敏子さん、6年図画工作での絵画学習に市川康郎さん、ダンスクラブの指導に五十嵐裕太さんと、そ



3年図工 釘打ち学習



5年理科 天気の学習

れぞれ専門的な内容をご指導いただいております。また、毎週木曜日には、図書ボランティアの方々にお出でいただき、子ども達へ読み聞かせを行っていただいております。普段の忙しい業務の合間の中、来校していただいた地域の皆様方に感謝しております。また、明快なご指導により子ども達は、学習意欲を刺激され、より力を伸ばしております。やはり子ども達は、学校・家庭だけでなく、地域の方々との関りを通してより成長するものだと感じております。

今後は、4月からスタートする学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）のもと、これまで以上に地域の皆様のお力をお借りしながら、子ども達の教育環境の充実に努めてまいります。

中学校コーナー

【職業ワークショップ】

11月27日（土）には2学年PTA行事として、職業ワークショップが開催されました。コロナ禍で校外研修として職場体験やインタビューをしていくことができない生徒のために保護者の皆さんで企画いただいた行事です。



当日は、ネイリスト、消防士、警察官、看護師、保育士などの現役の皆さんがおいでになり、各教室の会場で生徒から「職業に就いた理由」、「仕事の魅力」、「辛かったこと、やりがい」などの質問に答えてくださいました。お忙しい中ありがとうございます。

【ネット・スマホの依存について考える】

12月4日（土）には1学年のPTA親子行事が開催され

ました。未来の風せいわ病院理事長の智田文徳先生をお迎えし、ネット・ゲームが人間関係に及ぼす弊害について講演をいただきました。

当日は、保護者の皆様にも多数参加いただき、お話を聞くだけではなく、質問に動きながら答えたり、グループで話し合ったりするなど活動を取り入れた場面がたくさん見られました。

「ゲームが脳に与える影響」、「自分をコントロールできない」「依存症」の怖さについて学ぶよい機会となりました。



【市PTA表彰受賞】

今年度の年次表彰としてPTA副会長の佐藤英子さん、同じく副会長の中屋敷香代子

さんが表彰されました。これまでの活動への貢献に敬意を表して授与されたものです。受賞おめでとうございます。



【冬季リーダー研修会】

1月5日（水）には矢沢中学校の新生徒会役員らを集め、リーダー研修会が行なわれました。始めに佐々木律夫校長先生から「富士登山のルートを決める」という課題に向かつて考え、それぞれの意見を発表しました。初めての試みとして矢沢小学校の希望者も4名参加し、その後9時から12時までの講義も研修して、矢沢中のリーダーとしての心構えをつくる熱い3時間となりました。

わが同好会の紹介⑬
ばっけの会

千葉 富貴子

私と絵手紙との出会いは、公民館主催の絵手紙教室でした。月二回の教室は楽しく、20年弱続けてきました。

初めは会員10人位で活動をしていて、文化祭にも参加していました。現在は高齢者3人が、矢沢振興センターに集まって楽しく続けています。

絵手紙創始者で現在日本絵手紙協会名誉会長の小池邦夫先生の著書に「一人で書きながら二人」という言葉があります。これは手紙を書くのは一人ですが、受け取る相手がいることで、日本全国どこにでも届けられることを言っておられます。

一人でいてもその人のことを思ったり、励ましたり、元気づけたりすることで二人になれます。

絵を描くことや言葉を考えることにより、脳全体の働きが良くなります。上手・下手ではなく、心を届けるのが絵手紙です。



私のひょうご

大森 松司

「詩吟、さて続けられるか？」



ろうか。

矢沢地域情報誌「やまぼうし」を見ていたところ、ある記事が目にとまりました。「わが同好会の紹介⑬ 矢沢吟詠会」という記事であった。

実はその昔、私の母や叔母(母の妹)が詩吟を習っていた時代があり、その頃、母に勧められたが、若かったせいかあまり関心が湧かなかった。今から20年以上前になるのであるろうか、子どもが中学生の時、校長先生が及川巖先生の

昨年のこと、とは言っても、4か月ほど前のことであ

であった。何かの折、巖先生が詩吟を披露する機会があった。巖先生は日本大学で吟詠部の部長を務めた方であり、それはそれは、たいへん素晴らしいものであった。いつか機会があったら、私も巖先生のようにももちろんできなくてもやってみたいものだなあと、しみじみ感じたことがあったのも事実。しかし日々の繁忙にかき消され、機会を生かしきれずに今に至っていた。

昨年12月に開催された胡四王史談会の行事で、「盛岡市内記念館巡り」に参加させていただいた。昼食会場で偶然隣に座られた方が多田アツ子さんで、「やまぼうし」に記事を書かれた方であった。これ幸いと、矢沢吟詠会のことを話題にさせて頂いたところ、その会長である古川洋一さんが私の向いにおられ、何

から何までお膳立てよく、次の練習会に参加させていただくこととなった。

やはりみなさん朗々と美声を響かせ、素晴らしいものであった。

詩吟は、先人たちの古今の詩歌に出会うことができ、声を出すことでストレス解消や健康増進にもつながるといって、そしてみなさんと一緒に学ぶ楽しみや、新しいことを発見する喜びもありそうである。

「60の手習い」と言うが、「70の手習い」になる。それでもいくら歳を取っても、何事も「思い立ったが吉日」であり、「その時がスタートのとき」。歳を取ったら、なおのこと新しいことにチャレンジするのも若返りの秘訣ではないのかと勝手に考え、先ずはやってみることにした。

編集後記

コロナ、コロナももう三年目。私たちの生活様式が大きく変わりました。マスクの着用や手の消毒はすでに定着。お葬式では近親者のみでの葬儀。会葬者は式場には入らないで手前での焼

香。無尽などの飲み会も自粛モード。お陰様で体調はすこぶる良好？

今回のオミクロン株は感染力が強いことと子どもなど若年層への感染が広がっていることしかし、高齢者も油断できません。徐々に感染拡大しその重症

化が危惧されています。

基本的な感染防止対策をしつかり行うことと感染リスクの低い行動は勇気を持って避けることが大事。早くコロナ禍が収束し安心して卒業式や入学式を迎えたいものです。

(編集委員 佐藤 信一)

次号は6月1日発行予定です。